

令和5年度（2023年度）いわみ西保育所拠点事業報告

《いわみ西保育所》

I. 事業総括

＜保育方針＞

- 一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。
(現在をもっともよく生き、望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- 保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮した援助を目指しました)
- 子どもと子育てに優しい地域を作るよう努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、養護と教育を一体的に展開しながら保育を進めてまいりました。子どもたちが安心して過ごせる環境の中で、愛着形成を育み、自己肯定感を高められるよう常に肯定的な言葉がけと寄り添う気持ちで関わりを深めてきました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終的な目標とし、それぞれの年齢で押さえておくべきポイントを計画として掲げ、年間計画に沿って取り組みを進めました。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

この3年間保育所内での活動が中心となり地域交流を控えてきましたが、新型コロナウイルスが感染法上5類に移行したことで、少しずつ交流を再開することが出来ました。地域の温かさに触れ、改めて地域に生まれ支えられていることを実感致しました。引き続き地域から理解が得られるよう取り組み内容を積極的に発信し、連携・協働を図ってまいります。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.17 千円	2.50 千円
	労働生産性	4,144 千円	4,129 千円

付加価値額は目標値を上回り、人時生産性は労働時間管理に努め指標値をクリアしました。労働生産性は適正配置を図り99.6%の達成率でした。

Ⅲ. 計画事業の総括

1. サービス事業への取り組み

年長児クラスの在籍が多く、支援を必要とされる園児も多く在籍されていたため、保育所全体で支えていく体制を執り保育業務を進めてまいりました。保護者に対しても保育所全体で保育を行っていることをお伝えし、朝早くから夕方遅くまで安心して過ごせる環境の提供に努めてまいりました。支援を必要とされる園児に対しては、職員間及び関連機関と連携し、より良い関わりを大切にしてきました。

保育計画では、乳児期を安心して過ごすことで自己肯定感を高め、安心感の中で次へのステップへと進めることが出来るよう保育内容や環境を考えながら進めてまいりました。保育計画に則った保育を進めていくことを保護者にも発信することで、活動に対する理解や協力を得ることが出来ました。保護者と職員が「子どもたちを大切に育てる」という共通の目標を持ちながら、保育を進めることが出来たことは職員にとってもやりがいと達成感に繋がったと感じております。

2. 人財育成への取り組み

オンラインによる研修が定着し、時間の効率化や研修期間を自分で選択できるようになる等、近年参加できなかった研修を受けることが出来ました。

また新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでの保育を見直しする機会が増え、職員自ら業務内容を考え改善していく取組みが窺われ、一人ひとりが意識をもって仕事に向かう姿勢が見られました。職員の育成や指導に関しては、法人でのマネジメント研修を活かして、フィードバックミーティングを丁寧に行い、職員同士が寄り添い、互いを認めながら業務の遂行にあたることができていると感じております。

3. 地域との関係強化への取り組み

感染症の対策が緩和され地域交流を再開しましたが、現在もなお感染拡大の懸念があることから、これまでと同じような形ではなく、基本感染対策を取りながら安全性を考慮し交流を進めてまいりました。交流再開では、高齢者や地域の方から評価いただき改めて地域との関係性の大切さを感じました。

関係性を深めるため、保育所の活動内容を SNS 等活用し、保育内容の目的、意義等も添えて地域の方に発信しました。発信の方法や媒体については今後も引き続き検討し改善を図ってまいります。

4. 生産性向上への取り組み

勤続年数の浅い若手職員がしっかりと成長し、クラス運営なども任せることができるようになりました。業務の遂行が十分成されており、生産性を高めることが出来ました。ICT化に関しては、活用できる場面を増やしながらも、すべてをICTに頼るのではなく、子どもへの関わりや保護者との信頼関係を深めるためには、実際に対面で接することが重要であることから、場面に応じた活用方法を検討しながら業務の効率を上げるよう努めてまいりました。

5. 施設整備への取り組み

事業計画に掲げたものは予定通り行うことが出来ましたが、計画外での修繕を要したところが数か所あり、業務に支障が出ないように対応いたしました。建物は19年が経過していることもあり、今後も修繕箇所が増えていくことが予想され管理を行ってまいります。

令和5年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率 (KPI)
100名	96名	97名	97%

(2) 利用者構成状況

クラス別	計画数	実績数	差異
0歳児	8名	8名	—
1歳児	13名	13名	—
2歳児	11名	12名	+1名
3歳児	13名	13名	—
4歳児	20名	20名	—
5歳児	31名	31名	—
計	96名	97名	+1名

2. 実施サービス

計画上の事業及び実施した内容・成果等
<p><養護></p> <p>生命の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔で安全な環境を提供しました。新型コロナウイルス感染症の分類変更後も従前の基本感染症対策は継続してまいりました。新型コロナウイルス以外の感染症が、この数年は見られませんでした。今年度はインフルエンザやアデノウイルス、溶連菌感染症等、乳幼児期に感染しやすい感染症が出ましたので、保護者へ病院受診を促し体調の確認を丁寧に行いました。 ・日々の生活では、一人ひとりの生活リズムを大切にしました。また、身の回りの事が自分でできるように、それぞれの年齢に合った支援を行い基本的な生活習慣の確立に向けて取り組みました。 <p>情緒の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の愛着形成が育まれるように関わってきました。自分は愛されていると感じることが出来るよう、一人ひとりとの関わりを大切にしてきました。親と早くから離れて過ごす子どもたちにとって安心できる場であり、保護者も安心して預けることのできるような保育所を目指し、落ち着いて過ごせる環境を提供しました。 ・幼児には常に肯定的な言葉がけを心掛け、自己肯定感が育まれるような関わりを持つようにしました。子どもたちとの信頼関係を築き、心身の調和や安定感を図った上でいろいろな経験を積ませ、自発性や探求心、挑戦する気持ちを育てるような支援を行いました。子どもたちの成長は一人ひとり違いますが、それぞれの成長の姿を見ることができました。

<教育>

健康

- ・「元気な体作り計画表」に基づき、クラス別に目標を立て、年間を通して様々な運動や遊びを取り入れてきました。乳児期は、安全な環境の下で成長に必要な動きや活動を意図的に行い、運動機能を高める支援を行いました。個人差はありますが、活動範囲を広げながら取り組みました。
- ・幼児期では、身体を動かすことを大切に日々の積み重ねで体幹を整えることを目指しました。また、様々な運動遊びを取り入れることで、身体だけではなく、頑張ろうとする気持ちや挑戦する気持ちが育まれるよう取り組みました。
- ・自然豊かなこの地で自然の中での遊びも取り入れてきました。野草茶づくりに必要な野草集めに散歩に出かけ、深篠川遊びや日貫での川遊び、金毘羅さんの山登りなど、貴重な自然遊びを経験しました。また、地域内を歩くことで、地域の方に元気な子どもたちの姿を見ていただくことも出来ました。

食育活動

- ・給食を通して、食べることの楽しさや、いろいろな食材を食べられることができる感謝の気持ちを育てること、食に対する興味を高めるなど様々な食育活動を行ってきました。0歳児では安心した雰囲気の中で食べる事ができ、また自分で食べようとする意欲なども育てるように関わってきました。こうした関りを基本として、好き嫌いなく何でも食べるようになること、食具を使って食べる事が出来るようになること、また就学前には時間内で食べることや姿勢よく食べられること等、ルールやマナーについても知らせていきました。忙しい保護者にとって、子どもたちがしっかりと食べ、元気に過ごせることは何よりうれしいことではないかと考え、子どもたちの姿を伝えることも大切に行いました。5～6年間を保育所で過ごす中で、卒園児にはほとんどの子どもが、なんでも食べる事ができるようになっていることを嬉しく思っております。
- ・畑やプランターを利用して野菜を育て、自分たちで食材を切り、料理するを経験しています。収穫の喜びや自分たちで作ったものを食べる喜びから、食に対する興味関心を高め、食べることへの意欲にもつなげております。
- ・保育所での取り組みを保護者に伝えることで、保護者の食に対する意識も変わってきていると感じます。食の大切さを伝えることで、子どもの成長を共に支えていくことができると願っております。

人間関係

- ・人と人とのつながりを大切に考え、乳児期にはしっかりと愛着の形成を目指し、幼児期は自己肯定感が育まれるような関りを持つように心掛けました。担任との信頼関係が構築できた上で、子どもたちが安心して様々な活動に取り組めるようにしました。
- ・幼児期には友だちとの関係のなかで、協調性や思いやりが育つように、一人ひとりの違いを認め、自分らしくいられることを大切にしました。一人ひとりが違うことを理解することで、他人と比べなくてもよいことや、違いがあることを非難することがなくなり、いじめへ繋がることもなくなると考えております。
- ・異年齢児の交流を通して、家庭では出来ない人との関りを経験するようにしました。小さい子どもとの触れ合いの中から、優しくすることを学び、お世話をすることに

よって自分が人の役に立つことを感じるができます。そのような関りの中から社会性も身に着けることができたのではないかと考えております。

環境

- ・安心安全に過ごせる環境の提供を行いました。守られているという安心感の中で、探索活動を広げ、周りの物事に興味関心が持てるようにしました。また、それぞれの年齢に応じた保育の環境(生活の流れがスムーズに行える環境、年齢に合ったあそびの環境など)を計画的に考え、実施しました。
- ・社会事象や自然事象への興味、関心が高まるような言葉がけを行い活動を取り入れるようにしました。子どもたちの成長を支える環境については、職員間でも話し合いの場を持ち、改善などを定期的に行うように努めました。

言語

- ・乳児期には言語の獲得をめざし、場面に応じた様々な言葉がけを行ってまいりました。また言葉のやり取りから、人との関わりを深めることにも繋げていきました。子どもたちの語りかけはしっかりと受け止め、やり取りの楽しさ、言葉で伝えることの喜びが感じられるようにしました。
- ・絵本などを通して、言葉の広がりややり取りの楽しさを知り、そこから想像力を広げ、他人の気持ちを考えることへ繋げていくことを大切にしました。
- ・幼児期には聞くことの大切さも知らせ、就学に向けて人の話を聞くことが出来る、自分の思いを伝えることが出来るよう取り組みました。
- ・言葉のやりとりから、言葉や文字に興味を持たせ、文字や数字の理解へも繋げていきました。また保護者にも読み聞かせや、子どもとの会話を広げることを協力してもらうように言葉のやり取りの重要性を伝えるようにしました。

表現

- ・自由な表現と豊かな感性を育てるために、乳児期から保育者は表情豊かに関わることを心がけました。
- ・身体機能を使つての表現遊びが出来るように環境を整えリズム遊びなどを取り入れてまいりました。子どもたちが表現することを常に肯定的に捉え、自分らしい表現が出来ることを大切にしました。
- ・絵画・制作活動を通して自分らしく表現するを経験するようになりました。伸び伸びと表現できるように、様々な素材を準備し幅広い活動を取り入れました。自分なりの表現を認めてもらい、子どもたちも嬉しそうでした。講師によるアートデーも今年は計画通り進めることができました。専門性を活かした指導を受けることができました。
- ・おたのしみ会での発表は、それぞれの年齢の目指す目標に向かい、自分なりに頑張り、友だちと一緒にやり遂げた達成感や自信へ繋げることができました。

<災害時の備え>

- ・年間計画に沿って毎月一回の避難訓練を実施しました。訓練後に内容を検討し、改善点を話し合うことで、より現実的に取り組むことが出来ました。
- ・BCPについても再確認し役割の確認などを行いました。
- ・備蓄管理は備蓄食の賞味期限が切れた為、新しい備蓄食を購入しました。

<特別保育事業>

一時預かり事業

- ・在宅での子育て中の母親が育児疲れを感じており、週に一日の割合でお預かりをしました。その時だけでも気持ちが楽になると喜びの声をいただいていた。
- ・育児休暇中の母親からも病院受診などでの利用がありました。町外からの転勤で最寄りに身内がない母親にとっては、重要な事業になっております。

体調不良児保育

- ・今冬は各種の感染症が流行り、体調を崩す園児が多くいたことから、体調不良児室の利用が増えました。
- ・園児の急な発熱があった時に保護者に連絡を入れておりますが、仕事の都合で直ぐに来られない場合もあり、クラスでの対応が難しいとき有効となります。
- ・担当看護師が感染予防対策に気を配り、玩具消毒、換気など衛生面において丁寧に対応いただきました。

障がい児保育

- ・年長児に配慮を要する園児が在籍し、不安を抱える保護者との面談は随時行うようにしました。
- ・就学については、就学支援委員会において助言をいただき、保護者の気持ちに寄り添いながら就学支援を進めてきました。小学校との連携会議を設けて具体的な支援や家庭の様子なども伝え、園児が安心して就学できるようにしました。

保護者の子育て支援

- ・年に1回の個人面談のほか、悩み事や気になることがあれば随時面談を行い対応しました。また食事の悩みやアレルギーのこと等も栄養士が相談に乗り、アドバイス等を行いながら保護者の不安に寄り添うようにしました。

<その他の行事>

- ・新型コロナ感染症が5類に移行し従来の行事を再開しました。感染症対策で得られた経験を基に行事の見直しを行いました。
- ・行事等で子どもの成長した姿を見ていただき、保護者と共に成長を喜び合うことができました。また子どもたちにとっては、成長した姿を保護者から褒めてもらうことで、自信を持ち次へのやる気へと繋がる良い経験となったと思っております。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職
所長	1		1			
主任保育士	1		1			
保育士	10	3(2.8)	10	3(2.8)		
子育て支援員		1		1		
管理栄養士	1		1			
調理員		3(2.4)		4(2.4)		+1(±0)
看護師		3(1.0)		3(1.4)		(+0.4)
清掃員		1		1		
計	13	11(8.2)	13	12(8.6)	±0	+1(+0.4)

- ・看護師が1名、12月より契約職員に転換
- ・保育士1名産休、現員での対応
- ・調理員1名5月産休によりパート職員1名増員

【人財育成事業】

① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理研修	栄養士 調理師		調理実習と食育計画の考案、反省、今後の方針について検討しました。
救急法講習会	全職員	12名	プール実施前に再確認しました。
防犯訓練	全職員		東保育所で実施し、園児の父親と名乗る不審者が現れた想定で訓練を行いました。職員を園児に見立てて行ったことで、良い訓練となりました。
園内研修 ・毎月保育士が講師となり、研修伝達や自己啓発、報告会等実施	全職員	随時参加可能な職員	職員間で研修を行いました。外部研修の報告・伝達研修を中心に職員間で共通認識が持てるようにしました。9回は職員が講師となり、残りは園児についてのケース会議などグループ討議を行い、園児についての情報を共有することが出来ました。
人権擁護研修 (自己評価チェックの実施)	全職員	全員	子どもの人権を守ることができているか、自己チェック表を年に3回実施し自分たちの関りや考え方を再確認しました。
年齢別、主任、調理師の話し合い	担当職員	適宜	今年度は年齢毎に取り組み目標を掲げ、それに沿って年間の話し合いを進めました。また情報交換を行い互いの保育の向上を目指しました。
いわみ西保育所・公	全職員	全員	5歳児の保育を見学したのち、保育に

開保育			ついて語り合い、保育の質の向上を目指しました。
-----	--	--	-------------------------

② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
邑智郡保育研究会 総会	全職員	所長	感染対策により研修は見送られた為、 所長会を行い情報を交換しました。
実技研修 (リズム表現遊び)	全職員	5名	ひだまり保育園檀上由香氏を招いて、 いろいろな表現遊びを学びました。
郡調理研修		3名	誤飲、誤食関する食事提供について再 確認しアレルギー対応などを学びまし た。
郡保育研究会 「本当に子どもを大 切にするってどんな こと」	全職員	7名	なぜ子どもの主体性を大事にするの か、主体性を持った人に育つために大 人は何をすべきなのか等、保育の根 底で目指すところを学ぶことができま した。
島根県保育協議会・島根県社会福祉協議会(人材センター)			
キャリアパス対応生 涯研修「チームリー ダーコース」	中堅職員	1名	チームリーダーとしての役割を学び、 意識改革を行いました。
新人研修	新人職員	1名	子どもの発達心理や虐待防止、保護者 支援、職場でのコミュニケーションの 取り方等新人職員に必要なことを学び ました。
食育推進研修	調理	1名	食育の進め方や保護者への発信、食事 中の関り方などを学び、これからも多 くの食体験を提供していきます。
キャリアアップ研修 「障がい児保育」	保育士	1名	障がい児支援についての関り方や保護 者支援など、障がい児と向き合うた めに必要な知識を学び現場での実践へ と繋げていきます。
県主任研修	保育士	1名	保護者支援と保育の専門性について学 びました。支援の要る保護者を困った と捉えるのではなく、親の困り感がど こにあるのかを知ることが大切である と考えさせられました。
中堅スキルアップ研 修	主任保育 士・係長	1名	中堅職員としての立ち位置や役割を学 びました。職場での人間関係や後輩育 成に繋がります。
チームリーダースキ ルアップ研修Ⅰ (Ⅱ-1, Ⅱ-2)	中堅職員	1名	チームリーダーとしての役割やマニ ュアル作成、その活用方法等について学 びました。自分の今の役割として実践

含む			に繋がります。
全国保育士会研究大会・食育研究発表	所長・管理栄養士	2名	食育研究発表として、5年間取り組んできたことを全国大会で報告しました。取り組みの過程でチームワークを高めることができました。
県大会	全職員	4名	大豆生田氏による講演、子どもをまんなかに考えた保育の在り方を学び、保育の振り返りの場となりました。
キャリアアップ研修「保健衛生・安全対策」	保育士	1名	事故防止、健康管理について学びました。知識としてだけでなく実践に活用していきます。
県施設長研修	所長	1名	保護者、職員との繋がりという講演の中で、若い世代との関わり方について学びました。職場内での人との関わりに活用していきます。
福祉サービス苦情解決研修会	所長主任	1名 (主任保育士)	苦情解決受付責任者として保育主任が研修に参加、苦情対応と苦情から学ぶ環境作りについて学びました。苦情を今後への改善と考え向き合っていきます。
県メンタルヘルス研修	保育士	2名 (主任保育士・係長)	管理職コースと一般職コースを受講、それぞれの立場から職場の心理的安全性を考えながら、同僚や部下に接していくことを学びました。
県リスクマネジメント研修	保育士	2名 (係長・主任)	管理職コースと一般職コースを受講、危険回避だけでなく、職場の働く環境を整える必要性も学びました。
キャリアアップ研修「保護者支援・子育て支援」	保育士	1名	保育所内の保護者支援だけではなく地域での支援も大切だと学びました。虐待等に繋がらない支援を行いながら、子どもたちを守ることができればと感じました。
保育施設経営セミナー	所長	1名	園児数減少が急速に進んでいることを受けて、今後の保育所運営の在り方や存続に向けての考え方を学びました。実際に園児数が減少していることから今後の方向性を考える良い機会となりました。
「幼児期の運動遊び」指導者講習会	保育士	2名	幼児期の運動遊びの大切さや実際に身体を動かしながら実践に活用できるものを学びました。子どもたちの良い経験となるよう保育に取り入れていきます。
町内研修			

管理職研修	所長	1名	
邑南町特別支援連携協議会研修会「子どもとメディア・ゲームとの付き合い方」	全職員	6名	西部島根医療福祉センター大野貴子医師より、メディアの付き合い方について学びました。何もかも禁止ではなく、活用できることは活用し、規制が必要な場面との使い分けが乳幼児期では重要、大人も詳しくなるべきと学びました。
邑南町人権・同和教育啓発推進講座	全職員	1名	差別とは何か、平等とは何か、当たり前前に捉えていることでも既に差別があり、日常の中で気づくこと、疑問を放置しないことの大切さを学びました。
邑南町子ども健康サポートネットワーク推進委員会研修	全職員	2名 (所長・看護師)	保育所内での危険の回避、事故後の対応等を学びました。怪我等で不安な時には躊躇せず病院受診を勧められました。

③事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長 主任	1名 3名 2名	業務に対する姿勢や目的意識、人材育成のフィードバックの重要性等、マネジメントを科学的に学ばせていただきました。日々の実践も行いながら、学びを実行へと移すことの重要性を感じ、研修後の振り返りに新たな決意と日々の反省を感じております。
健康出前講座	職員	5名	仕事で体を痛めない身体作りのコツや運動法を学びました。日々の中で取り入れていきたいと思えます。
ハラスメント研修	所長 係長	4名	職場内でのハラスメントについて学びました。また個人によって捉え方が違うため、意見交換をすることで他者の考え方も学ぶことができました。
人事評価者研修	所長 係長	4名	人事評価をするにあたって、評価項目を言語化する必要性を学びました。研修後保育所3園で目線合わせを行いました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの積極的受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶会の講師、おはなし会、わらべうたのボランティア受け入れを再開しました。年長児はお茶会の経験が無かったため、最終年度に経験することができました。外部の人との関わりは、子どもたちにとって貴重な体験となっております。 ・高齢者との交流も再開し、参加後に「元気をもらえた」「楽しいひと時を過ごすことができた」とのお声をいただき励みになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との繋がりを深める。 ・保育所だけでは出来ない経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係性を深めることに繋がっております。

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT化の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容や子どもたちの姿を保護者へ伝えるツールとして効果を発揮し、日々の身近な発信から、行事発信等幅広く活用しました。 ・書類業務については、日誌等時間の短縮や紙の節約にも繋がりました。また職員もICT化に慣れスムーズな操作が出来ております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への配信の充実 ・地域への発信力を高める ・直接保育業務の時間増加 ・時間の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・配信内容については、改善・検討を続けてまいります。 ・時間の有効活用、人員不足による残業発生等、体制整備が課題として残りました。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
和式便器から洋式便器への修繕工事	6月に計画していたが、材料の調達が困難となり、着工がずれ込み10月に工事が完了となりました。
乳児室手洗い場カラン取り換え工事	洗う時に園児の手が届きにくかったため、カランを長いものと取り換えました。
駐車場園庭門付近の照明増設	遅番時に迎えに来られた保護者の顔が見えにくいため、駐車場側へ照明を増設しました。
乳児の午睡時の睡眠チェック機の導入	午睡時のうつ伏せによる窒息や乳児突然死症候群を防ぐため午睡時の睡眠チェック機を導入しました。
遊具の購入	子どもの発達に必要な遊具（ブロック、ままごと道具、人形等）を購入しました。
絵本の購入	子どもの成長を支える絵本の購入、古くなった絵本の差し替え購入を行いました。
計画外の施設整備	実施した内容等

乳児室の柵の修繕工事	長年使用していた乳児クラスの柵が劣化し（柵の縦板が回る）危険を伴うため新しいものと取り換えました。
砂場の砂搬入	砂が減少し砂場へ転落する危険性が出てきたため対応しました。
食器洗浄機の修理	毎日使用する食器洗浄機のすすぎポンプが故障した為、新しいものと交換しました。
玄関自動ドアの修理	自動ドアのモーターが故障しましたが、修理費が高く自動を維持する理由が無いため、モーターを外し手動で開くようにしました。
スチームコンベクションのホース交換修理	スチームコンベクションのホースが傷み、引き続き使用するため部分修理を行いました。

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	1,820	2,370
大規模修繕	280	360
その他	210	270
計	2,310	3,000

*取崩 1,415 千円

【感染症・災害への対応への取り組み】

- ・災害対応については「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に沿って、月一回の避難訓練と振り返りを行いました。実際の訓練を通して見直しを行い、職員間で動きの確認を行いました。感染症に関しては、BCPの見直しと共に、職員の役割や体制について話し合いを行いました。
- ・安全対策は安全計画に則り、計画的に進めてまいりました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和5年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

苦情事例【1】

発生日	令和5年9月21日
申立人	園児保護者
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> 説明・情報の不足 感染症のお知らせ掲示が出ていない時がある。新たな感染者が出てなくても、継続している子がいれば、毎日知らせたいとの要望がありました。これまでは感染者が出ている間は掲示があったと指摘を受けました。
処理結果	感染者が確認されている間は掲示を行うことをお伝えし、漏れが無いよう担当者と確認し合いました。
第三者委員の関与	令和5年9月28日の苦情解決委員会で報告

苦情事例【2】

発生日	令和5年12月15日
申立人	5歳児園児の保護者（母親）
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> その他（子どものケガ） 保育所から帰ってきて、手の甲に黒い傷があったので、子どもに尋ねたところ、朝の時間にクラスの男児に鉛筆で手を刺されたと母親が聞き、保育所から何の連絡もなかったことと、子どもへの対応もなかったことで、月曜日の連絡帳より苦情を受け付けました。
処理結果	友だちに鉛筆で刺されたと聞き、直ぐに担任や早番担当者に確認してみましたが、そのような事実があったということが掴めませんでした。園児本人からの報告もありませんでした。怪我は月曜日にはわからなくなっており、大事には至ってなかったようですが、保護者には、状況を把握していなかったことを謝り、子どもたちには何かあったら必ず担任に伝えるよう話し、怪我をさせた子どもには、実際に行ったのかを確認してから注意を行いました。
第三者委員の関与	令和6年2月22日の苦情解決委員会で報告

苦情事例【3】

発生日	令和6年2月1日
申立人	5歳児園児の保護者（母親）
苦情内容・要望	<input checked="" type="checkbox"/> その他（子どものケガ） 母親より、子どもが後ろから蹴られ倒れこんだ時に顔を打ってしまったと、職員から夕方の迎え時説明を受けた夫から事情聞き、いつも同じ子に理不尽に蹴られたり叩かれたりしている。その子に特性があるのかもしれないが、いつも繰り返されるのは納得がいかない、と電話で苦情を受け付けました。
処理結果	突然蹴られた園児に落度はなく保護者の憤りを受け止め、子どもさんを守れなかったことを謝罪し、暴力をふるった園児に対しては、日頃から担任だけではなく職員全員で対応し見守るようにしていることを伝えました。相手の保護者に対しても憤慨されており、当保育所からも現状を伝えていることもお知らせしました。
第三者委員の関与	令和6年2月22日の苦情解決委員会で報告、アドバイスを受けました。

以上